

第4回（2020年1月開講）新・里山講座アルバム

第4回新・里山講座は受講生12名の皆さまと2020年1月12日から5月19日まで全12回連続で実施予定でした。ところが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、3月以降分を6か月延期し9月より再開しました。講座アルバムと受講生の皆さまの感想を取りまとめました。

第1回1月12日（日） 10時より鶴見区なにわECO スクエアにて「開講式、写真下左」、「受講生・スタッフ自己紹介、写真下中」、「保全協会が目指す里山とは」を常俊容子氏（ナチュラリスト講座企画運営、写真下右）の講義



午後より、「森林のしくみ」藤原宣夫教授（大阪府大教授、写真下左）、テキストより（写真下中）と受講風景（写真下右）。



<受講生の皆さまの感想>

- 全く知らない人達と講座を受ける中で、事務局の方や講師の方、また同じ受講される方の話を、最初にざっくりばらんな話から入れて受講に入りやすかったです。
- 身近にある里山の問題、歴史、これからの課題など、とても興味を持てる話が多く関心が深まりました。これからが楽しみです。
- 用語など難しいことを分かりやすく解説して頂き、理解を深めることが出来ました。

第2回1月26日（日） 10時より鶴見区なにわECO スクエアにて「里山保全事故事例」「KYK」は大塚陽一（新・里山講座スタッフ、写真下左および写真下中）、「ロープワーク」は岡本利典（新・里山講座スタッフ、写真下右）



写真下はロープワークの実習風景。



13時より「応急手当短期講習」日本赤十字社泉澤治指導員（写真下左）と講習風景（写真下中・右）。



＜受講生の皆さまの感想＞

○事故例では発生率は少ないものの自分が想像もしていなかったものがあり、気が引き締まりました。これからの野外実習でも安全を心がけたいと思います。

○ロープワークは、普段使い慣れていないので難しかったけど楽しかった。覚えておけば何かの時に役に立つと思う。勉強になりました。講座を受けている他の方と一緒に出来て良かった。

○応急手当講習は、いざという時に具体的にどう声をかけて何をすべきかなど、大変参考になったと思います。

第4回は2月3日（日）10時より吹田市紫金山公園内の吉志部神社社務所にて、武田義明氏（紫金山みどりの会会長、写真下左）より「紫金山公園の植生」を、金谷薫氏（紫金山みどりの会事務局長、写真下中）より「市民が公園計画を作った」の講義を受けたのち、13時よりKYKを行い、下草刈りの実習を受けました。その後フィールド見学、最後に実習に使用した鎌の手入れを行いました。



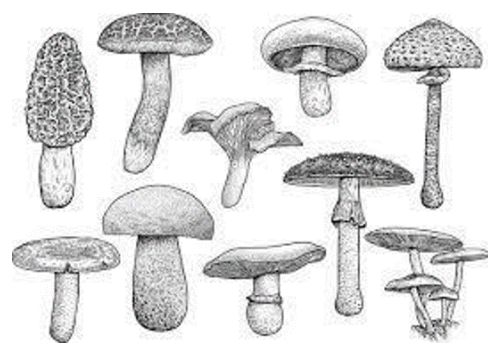
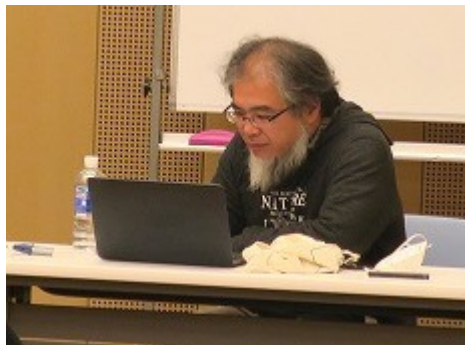
<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○市民が地域の自然を守り、行政に働きかけたということにエネルギーを感じた。

○鎌の使い方を丁寧に教えてもらって良かった。夢中になって草刈りが出来て楽しかった。

○鎌を砥石で研ぐのは初めてでしたので楽しかったです。他の鎌との違いなど丁寧に教えて頂いて勉強になりました

第5回は2月5日（火） 19時より阿倍野区民センターにて「人の暮らしと里山」講師の佐久間大輔氏（大阪市立自然史 博物館課長代理、(写真下左)より講義をうけました。



<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○自分の中で里山のイメージが変わった。村の中で里山を使用して自給自足するというイメージだったが、しっかりと商業として成り立っていたということを知って驚きだった。

○柴や薪は実生活用ではなく売り物として採取していたことを初めて知りました。

○今日のお話で里山が、都市部としっかりと経済的に結びついて成り立っていることに驚きました。

第6回は2月24日（日） 10時より富田林市彼方の「奥の谷フィールド見学・間伐」を田淵武夫氏（富田林の自然を守る会代表、写真下左）よりフィールド見学（写真下中）。実習の前にKYKを行い、富田林の自然を守る会のスタッフの皆さまのご指導により間伐実習を2班に分けて行いました。



<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○とても楽しかった。初めの講義で奥の谷の色々な側面が見れた。先生が「自然だから思った通りにいかない」とおっしゃっていた言葉がすごく印象的だった。

○伐倒前の確認、木の倒れる方向を決めることから始まり、木の切り倒しで受け口切りが難しく思えた。

○里山の地権者の方々の理解・協力と保全活動主体の皆さんのマンパワーと里山そのものの状態を考え併せて無理なく、そして続けられる規模と内容で実績を重ねてられていることがよく分かりました。

新型コロナ感染拡大防止のため、3月より予定していた講座を6か月延期しました

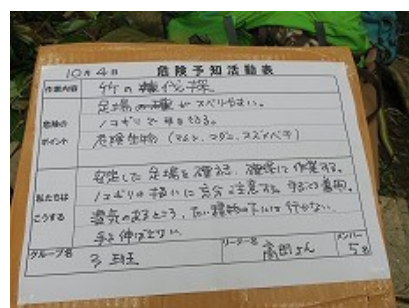
再開した7回目は2020年9月20日(日)10時より太子町葉室里山クラブが主催された「草刈り・ナツハゼジャム 作り」に参加しました。代表の小路公之さん(写真下左、中央の方)よりご挨拶があり、その後、中條月代さん(写真下左、黄色いセーターの方)より今日のプログラムの説明があり、草刈りのKYKを行い作業を始め、終了後、太子町葉室里山クラブのスタッフの皆さまのご指導によりナツハゼ摘みとジャム作りを行い、自然の恵みに感謝をして試食しました。



<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

- 久しぶりの山で気分も良く、気候にも恵まれゆつたりと過ごせました。ナツハゼ美味しく頂きました。
- 草刈りの時間が短くて余り刈れなかった残念！前回鎌の使い方を学んでいたの、思い出しながら楽しく活動出来た。
- 太子町葉室里山クラブでは、年間を通じて子どもさんも沢山参加出来る催しを用意されていて、このような里山の自然の中で子どもはたくましく育つのだなと思いました。

再開した10回目は10月4日(日)10時より、豊能町高代寺山において、「講義：竹について」を伊藤温夫氏(妙見里山倶楽部前会長、写真下左)、「実習：竹切」、を妙見里山倶楽部、井上登喜夫氏、実習については3班編成で行いKYKをした後、妙見里山倶楽部のスタッフの皆さまのご指導により行いました。また、昼食休憩を利用しフィールド見学、高代寺に保護されているツキノワグマ(写真下2段目右)の見学を行いました。



<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○久しぶりに身体を動かし、かなり疲れましたが汗をかいてストレスを解消出来た気がします。

○「成果が見えるのがいい」という班長の言葉どおり実習後の竹林は見違えるほどすっきり・さっぱりして、汗をかいた感じがあったと実感しました。

○竹を切るのが、だんだん楽しくなりました。伐採後少しすっきりした林が嬉しかったです。いい汗をかき気持ちいいです。

再開した10回目は10月18日(日) 9時30分より大東市野崎において「竹炭焼き体験」を佐藤和夫氏(野崎・飯盛の山と緑を保全する会代表、写真下1段目左)、大阪産業大学の学生さんを引率され参加されていた佐藤靖明准教授と多良竜太郎氏(京都大学大学院生)の炭焼きの講義を受け、孟宗竹を約10cmに切断、せんべい状に割り窯(全景写真下2段目左)に詰め込みました(写真下2段目中)。その後、窯に火入れ、前夜の雨で柴に火が付きにくく時間を要しましたが、時間とともに煙も立ち上がってきました。燃焼時間の合間を縫って野崎城跡までフィールド見学を行い終わりました。



<受講生の皆さまのふりかえり>

○とても楽しかったです。薪割の割る感触が楽しかったです。

○竹を切って短冊状にする作業、若者と一緒に楽しく取り組みました。

○野崎城跡まで登り見晴らし良く大阪まで見渡せ気持ちよかったです。

再開した11回目は10月31日(土) 9時30分より池田市トアエルにおいて「植生・毎木調査の必要性と方法」を土生陽子氏(木象嶺こぼみつ亭代表、写真下左)、その後、中川勝弘氏(五月山グリーンエコー代表、写真下中)に五月山緑地フィールド見学として炭焼小屋コースを大文字焼き火床までご案内頂きました。昼食後は、火床下に設けた実習地で「毎木調査実習、写真下2段目」を行い、実習後に緑のセンターに戻りふりかえりをする中で1日目を終わりました。



<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○皆で協調して行うことで一人では出来ないことが出来るので時間を忘れて集中していました。

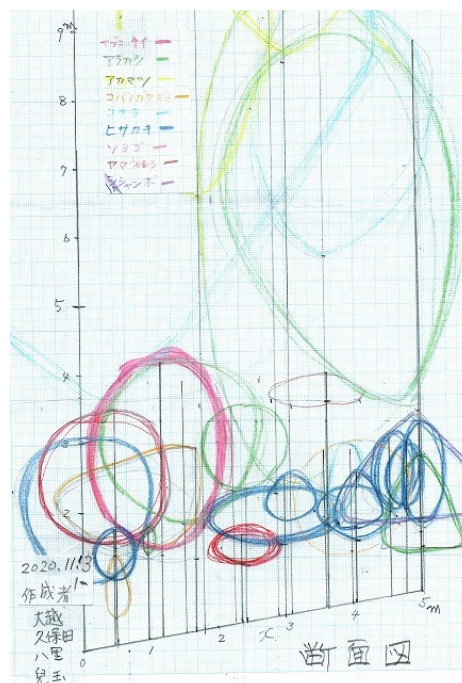
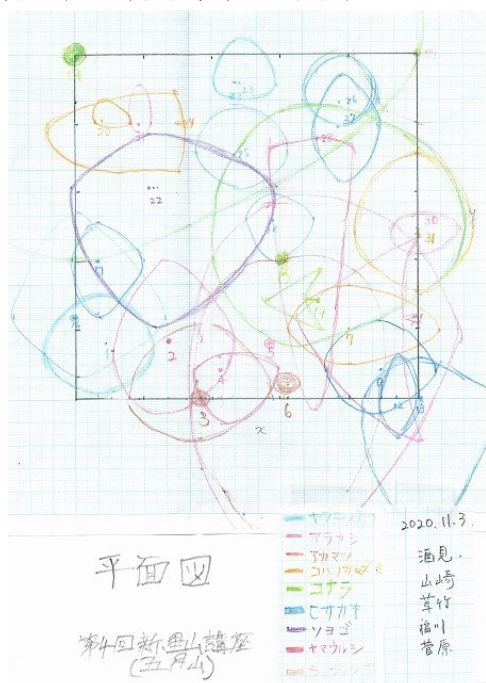
○かなりの急登りのハイキングも出来て、秋の小春日和より天気も良く楽しむことが出来ました。

○実習やってみるまでは「難しそう・・・」と思いましたが、役割分担すれば、なんとなく楽しく出来ました。

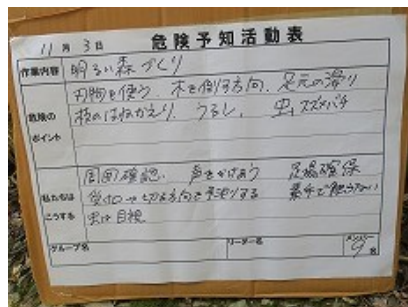
2日目は11月3日(祝火) 9時30分よりトアエルにて1日目に調査したデーターを平面図班と断面図班に分かれて作図後、どうい森なのか?そしてどうい森にするのかを話し合いました(写真下、左・右)。その後、中川勝弘氏(写真下、右)より「いのち輝き響きあう暮らしのそばの森づくり町づくりを目指して」について講義頂き、緑のセンターに移動し昼食を摂りました。完成した作図(左・平面図、右・断面図) 昼食後、五月平コースを登り実習地で「森づくり企画」を話し合い取りまとめました(写真下、1段左)。その後、安全を確認後どういコンセプトで森づくりをするのかを講師の方に説明して、間伐作業を中心にした実習により「森づくり」(写真 下1～2段目)を完成させました。実習終了後は緑のセンターに戻り道具の手入れ、返却、ふりかえりをして盛りだくさんな2日間の講座を終えました。



完成した作図(左・平面図、右・断面図)



昼食後、五月平コースを登り実習地で「森づくり企画」を話し合い取りまとめました(写真下、1段左)。その後、安全を確認後どういコンセプトで森づくりをするのかを講師の方に説明して、間伐作業を中心にした実習により「森づくり」(写真 下1～2段目)を完成させました。実習終了後は緑のセンターに戻り道具の手入れ、返却、ふりかえりをして盛りだくさんな2日間の講座を終えました。





<受講生の皆さまのふりかえりより抜粋>

○どの樹を切るか少し決めるのに勇気がいりましたが、切り終わったあとすっきりした林を見ると、とてもやりがいがありました。

○そんなに目前に細かく取り決めていなかったのに、テキパキと作業が進み、KYKも慣れ、安全確認をしながら行えたと思います。日差しが入り、明るい雰囲気になった森が出来、春が楽しみになる、そんなことを考えながら大変面白く楽しく作業が出来ました。

○僅か5m×5mの小さな区画ながら実際に自分たちで考えてやってみることが出来たのは大きい。講座の仕上げにふさわしいプログラムと思います。

<この講座のハイライトとなる毎木調査・森づくりを終えた後の集合写真です>



修了式は、11月22日（日）13時より福島区民センターにて、講義「里山保全と生物多様性」を田淵武夫氏（富田林の自然を守る会代表・写真下左）、「講座修了後の活動について」講座スタッフより説明し、その後の修了式では金谷副会長より修了基準を満たされた受講生の8名の皆さんに修了証を授与しました（写真下右）。



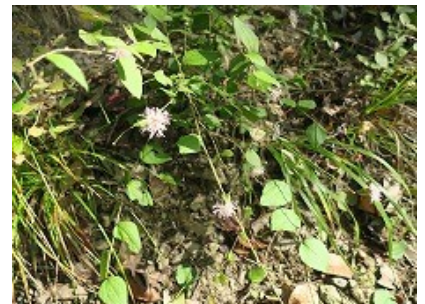
<修了式後の集合写真>



受講生の皆さまから頂いた講座全般へのアンケート結果抜粋

- ホームページで拝見して、保全活動を行っている団体が大阪府下にもあることを知り、実際現地で実習をさせて頂き、無理のないペース配分やKYK活動、野外でのお弁当などハイキング+技術演習という組み合わせで仕事の合間のストレス解消にもなりました。費用も適切で講師のお話も理解しやすく楽しかったとしか言いようがありません。
- 期待以上でした。プログラムでは、座学実習を重ね（今年は1回だけでしたが）懇親会機会や講座ニュースで受講生の親睦や関係を支えて頂いて最後の五月山で里山のあるべき姿を皆で考えるという流れがとてもよく考えられた内容だと思いました。
- 保全活動をしている様々な場に行くことが出来た。定年後の自分が何をしようか、何が出来るかを模索しているので参考になった。
- 参加してとても楽しかったです。様々な地域での里山保全活動を見て経験できたことは期待通りでとても勉強になりました。これからもう少し体力をつけて色々な観察会や保全活動に参加したいと思います。
- 私は竹の伐採の仕方が知りたくて参加したので、期待通りです。
その他、色々な取り組みをしていることを知ることが出来て良かったです。
- どの講座もその場所に合った工夫があり、楽しく参加出来ました。
それぞれの場所で活動されている方が、暖かく受け入れ下さいました。
講座費用 20,000 円も中身に見合った妥当なものだと思います。軍手は各自で用意の方がいいと思います。
- 毎回発行の講座ニュースは、皆さんの感想を見せて頂き、自分が気づかなかったことを気づいておられたりしたので、とても良いふりかえりになりました。

講座で出会った生きものたち（左より、アオジ紫金山公園、ベニカマキリ野崎観音、コウヤボウキ五月山）



以上